

春休み寺子屋を開催!

年々申し込みが増え、大好評の寺子屋事業。この春は3つのプログラムを実施しました。

家にあるものでバスボムを作ろう!

3月29日(水)、アロマセラピストの大木裕美さんによるバスボム作りを午前、午後の2回に分けて行いました。材料を丁寧にラップで包み、形を整えたり、持参した型抜きで抜いたりして、オリジナルバスボムを作りました。「今日お風呂に入るのが楽しみ!」と、みんな満面の笑顔でした。(中部公民館)



お兄ちゃんのバスボム
どんな形?
※バスボム…入浴剤



お隣同士で見せ
合いっこしています!

物語の主人公を描こう

3月28日(火)、岩原在住の絵本作家、山田花菜さんとデザイナーの吉成誠さんご夫婦を講師に、自宅でも簡単に出来る絵本を作りました。子どもたちは皆、絵を描くことが大好きで、集中して作品を仕上げました。それぞれが自分で考えてきた物語も素晴らしい、講師のお二人も驚きと感動の様子でした。(りんどう会館大会議室)

森のピカソ 絞り染めに挑戦!

3月30日(木)、あしがらアートの森の皆さんを講師にエコバックを絞り染めで作りました。大きいビーズやペットボトルキャップなどを輪ゴムで止めて、自分の好きな色で染めました。染める色は1色の子もあれば3色使っても染め上げる子もおり、同じ色を使っても染まり方や模様が違う、自分だけのエコバックを作ることができました。(中部公民館)



色彩豊かなエコバッグが完成

点訳グループ「青いぶどうの会」が活動を終了

昭和55年に発足し、約43年にわたって、視覚障害者のために広報誌の点訳や、市内小中学校の子どもたちへ点字の指導を行ってきた青いぶどうの会。この度、市内で点訳広報誌を希望する対象者が不在となったことに伴い、会を解散することとなりました。

青いぶどうの会は、昭和53年に市が主催した点字講習会に参加したメンバーが中心となり、54年から市広報お知らせ版の点訳を開始。翌年からボランティアグループとして歩み始めました。

最盛期は、10名の視覚障害者に対し、44名の会員が広報をお届けしていました。

最後の顔合わせとなった総会では会員の思い出話に花が咲き「何年やっていても、点字は奥が深く、勉強になることが多い」、「学校に行つて子どもたちに教えるための準備が大変だったけれど、楽しかった」などと話していました。今後は、個人ボランティアとして点訳活動が続ける方もいるとのことでした。

長い間、ありがとうございました。



小学生に点字の基礎を教える会員



最後の総会に臨んだ青いぶどうの会の皆さん